

情報読書スキルトレーニング

～さまざまな読書スキルを身につける～

高校 1年 現代の国語
「伝えること、受け止めること」
資料の活用

ねらい

- 「あらし読み」を通して、捜読 Scanning・掬読 Skimming・限読 Timed Reading・要約 Summarizingといった情報収集のための読書スキルを体感する。
- 「書く・話す・聞く」という作業を入れ込み、内容理解を深めるとともに、読書が苦手な生徒にも取り組みやすくする。
- ジャパンナレッジ for school 内「岩波ジュニア新書セレクト 100」を活用し、さらなる読書の世界へ繋げる。

学習展開

- ① ジャパンナレッジ for school「岩波ジュニア新書セレクト 100」より40冊の新書を抜粋し、紙媒体の新書を一人1冊配布。
 - ① 【新書の情報の概括】「奥付」を見て書誌事項を、「書名／著者名」を見て生徒がタイトルのテーマや著者について知っていることを、それぞれワークシートに記入。
【→対話タイム】
 - ② 【序章読み】新書の序章だけを読み、内容を3行／3文でワークシートに記入。【→対話タイム】
 - ③ 【興味読み】目次を見て、最も読みたい見出しを選び、ワークシートに転記。1章の中の1節だけでも可。
 - ④ 選んだ章(節)を読み、ワークシートに整理マップを記入。【→対話タイム】
 - ⑤ 【まとめ】①～③の記述を読み返し、読んだ新書について「わかったこと」「もっと知りたいこと」「自分の意見・感想」を、それぞれ1文以上でワークシートにまとめる。
 - ⑥ 授業内で読めなかった箇所および他の新書について、ジャパンナレッジを活用しての読書を促す。
- ◆二人一組の「対話タイム」では、自分の記述した内容をく口頭で伝え、もう一方が聞いた内容をくオウム返し backtracking〉する作業を交互に行う。

授業の様子（「対話タイム」）



授業で使用したワークシート
(生徒記入例)

◆司書教諭と学校司書の関わり

- 司書教諭はガイダンス等で新書についての情報を示す。
- 学校司書は担当教員の抜粋した新書を準備し、生徒の活動を支援する。

★指導のポイント

- ◆ 通読ではなく、「要点をすくう」「記録を残す」「内容を話す／聴く」といった作業に集中することで、情報を俯瞰するスキルの重要性を示す。
- ◆ 評価はワークシート単独では行わず、活動全体の様子を確認する。

資料

- ・ 岩波ジュニア新書40冊
- ・ あらし読み推進会(2021)「『あらし読み』〈探究〉の入口となる新・読書術」
<https://www.aramashi.online/>